

第2回チーム葦崎まちづくりミーティング

NPO法人

河原部社

スタッフ一人ひとりの想い、そして今後の課題  
〜河原部社の1年〜

地方創生への取り組みが本格化するなか、本市では若い世代が進学や就職を転機として市外へ流出し、そのまま市外定住することによる、若い世代の人口減少が課題となっています。そこで、昨年の10月にニコリの地下に「ミアキス」がオープンし、中学・高校生が自ら住む地域への誇りと愛着を深め、将来的にふるさとへ帰帰する心を醸成する「にらさき愛カムバック支援事業」に取り組んでいます。そこで今回のまちづくりミーティングは、ミアキスがオープンしてから1年が経過したことを契機に、内藤市長がミアキスを運営するNPO法人河原部社の皆さんから意見をお聞きしました。

理事長 松本 恵子さん



河原部社ではこの1年、カムバック支援事業を柱として業務を行ってきました。中高生が葦崎市に愛着を持って、大切に思う気持ちを育てるといふことと、葦崎市の中で若者がいきいきと活躍する社会を実現していきたいという目

的を持って活動していました。今後は、地域の事業者と連携して、地域の方々と交流する機会を増やし、若者が仕事や働くことへの意識の向上が図れるようにしていきたいと考えています。

施設長 西田 遥さん



この1年間で約1,500名の中高生と実際に関り

て感じたことは、中高生は親や先生以外の大人、つまり第3の大人との交流を求めていると感じています。親や先生には話せないことを相談できる信頼関係を築ける大人を求めネットを通して名前も知らない色々な人と交流しているのが現状です。ここでは実社会で大人と関わる機会を提供し、信頼関係の築ける大人と交流することが大事だと感じました。

理事 内藤 恵子さん



今後、河原部社では、市内の学校との連携を図っていききたいと考えています。保護者はミアキスでどのようなことが行なわれているか学校が把握していると思っていますが、

実際は違います。学校側と河原部社で相互に情報発信をしてお互いに理解を深めたいと思います。これからは教育について重視すべきだと感じています。葦崎市ではこういった教育が受けられることを市外にも発信していきたいです。学校の教育に河原部社が関わり、市外の方々にアピールしたいです。

理事 内藤 香織さん



当初は、大学生が中高生に関わるのが目的でしたが、ミアキスのOB・OGが今後どのように関わっていくかが課題だと思います。OB・OGの人たちを次の利用者へフイードバックできる事業作りが必要であり、卒業した後

関わりを持つために同窓会などを開くのも一つの手かもしれません。

理事 野田 ひろみさん



地域は人が創っていると感じています。ひきこもりだった子がミアキスに来るようになり、色々な人と関わることで、外に出るようになり積極的になった子もいます。市内外かかわらず、様々な分野の大人と関わって、中高生の力を引き出す場にするのが今後の課題だと思います。

葦崎市長 内藤 久夫



若者が地域の方々等と交流するためにも、学校との連携は非常に大事なことだと思います。また、卒業していったOB・OGの方々も継続して繋がりを持つことが今後の課題だと感じました。一緒に若者の活躍を応援しましょう。